

「戲擬俗曲歌辭①」

早川 侑哉

《雨》（雨が空から降れば…）

雨降於天心入地、絲絲降雨依依意。
霧中竹傘一街行、夢裡家鄉十歲事。
莊子觀魚彼此愉、二蘇對榻弟兄淚。
綿綿宿雨若之何、無可奈何還自恣。

【訓読】

雨天より降れば心は地に入る、絲絲たる降雨 依依たる意。
霧中の竹傘は一街の行、夢裡の家郷は十歳の事。
莊子魚を觀る 彼此の愉しみ、二蘇榻を對す 弟兄の淚。

綿綿たる宿雨之を若何せん、奈何ともすべき無く還た自づから恣なり。

【訳】

暫く缺く。（是非もとの日本語歌詞を調べられたし。）

*小室等と六文錢「雨が空から降れば」（詞…別役実、曲…小室等）

《白蝶舞曲》（白い蝶のサンバ）

君は蜘蛛妾爲蝶

君懷一入不能逃

未知蝶夢明晨覺

已近蛛絲短命勞

【訓読】

君は是れ蜘蛛にして 妾は蝶たり、
君懷一たび入れば逃る能はず。

未だ知らず蝶夢 明晨に覺むるを、
已に近し蛛絲に 短命の勞るるに。

【訳】

同前。

*森山加代子「白い蝶のサンバ」（詞…阿久悠、曲…井上かつお）